



豊田PCB廃棄物処理 事業だより(No.108)

1. 豊田PCB廃棄物処理施設 真空加熱処理設備について

真空加熱処理設備は、PCB油がしみ込んだ含浸物を処理する最後の工程です。

※含浸物とは、紙、プレスボード、木等のPCB油が内部にしみ込んだ物です。

乗用車一台が入る大きさの真空加熱炉の中で、含浸物を窒素中で加熱し、PCBを揮発させた後、PCBを窒素と共に真空ポンプで吸引、炉の中を空っぽにする処理を繰り返すことで、含浸物のPCB濃度を合格基準値以下に下げて、安全な産業廃棄物に変化させていく工程です。

※日本の合格基準値は、諸外国に比べ処理する側にとってはとても厳しい基準となっています。



含浸物を入れる加熱カゴ

※情報※

- ①一回に処理できる含浸物の量は、最大で270kgです。
- ②一回の処理に要する時間は、含浸物によって異なり、おおよそ1～2日です。

一方、この処理で発生したPCBを含む窒素ガスは、冷却して凝縮液中にPCBを回収、最後に残ったガスの中の微量のPCBは、活性炭に吸着させて回収します。



加熱カゴを真空加熱炉へ

2. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況についてのご報告

種 別	平成25年3月 受入台数	平成24年度 合計台数	
コンデンサ類	563 台	5,676 台	
トランス類	大 型	5 台	40 台
	小 型	28 台	156 台
	車 載 型	4 台	34 台
廃PCB等	16 本	95 本	
保管容器	2 個	17 個	

平成25年3月、平成24年度(平成24年4月～平成25年3月)の実績は左表の通りです。

3. 豊田事業部会・監視委員会について



3月4日(月)に平成24年度第4回「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会豊田事業部会」を開催しました。

豊田施設からは、①昨年9月に発生した排出管理目標値を超えるおそれのあるベンゼン排出事故に対する対策を取りまとめた改善計画書(案)、②豊田事業所における今後の改造計画(案)等について説明を行いました。各委員からの意見を今後の事故防止対策あるいは処理促進のための設備改造に活かしていきます。

3月6日(水)には豊田事業所において平成24年度第3回「豊田市PCB処理安全監視委員会」が開催されました。

当社からベンゼン排出事故に対する改善計画書(案)について説明を行い、各委員からのご質問等にお答えいたしました。

その後、弊社社長が事故を発生させたこととお詫びするとともに、二度と事故を起こさない決意で対策に取り組むことを申し上げました。



4. 豊田PCB廃棄物処理施設 見学について

24年度の施設見学者数

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
団体数	12団体	16団体	22団体	14団体	64団体
見学者数	40名	83名	109名	159名	391名

平成24年度も豊田市民の皆様をはじめ、行政、市議会議員、保管事業者の方々などPCB廃棄物処理に興味のお持ちの多くの方々に豊田PCB廃棄物処理施設をご見学いただきました。

豊田PCB廃棄物処理施設では見学を随時受付しております。ご見学を希望の方は【豊田事業HP】をご参照のうえ、0565-25-3110までお問い合わせください。

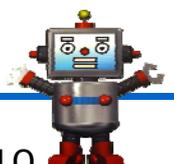


アザラシのピーちゃん

問い合わせ先

日本環境安全事業株式会社(JESCO) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>



デジ丸